

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

秋の行楽シーズンの3連休に台風19号が県内に最接近した。台風情報や被害を映し出すテレビ画面の前で息を

世紀最大級の台風との情報や今回の台風と似たコースだった1958年に1000人超の犠牲者が出た「狩野川台風」を例に挙げ事前対応の呼び掛けがされ、各店舗の売り場では、非常用食料などを買い求める行列が多く見られた。だが私にとって台風の経験と言えば1959年の「伊勢湾台風」。犠牲者・負傷者合わせて約4万3000人。白馬村でも松川河川が決壊して、白馬北小学校周辺まで水害が発生、特に強風はすさまじく、屋根トタンがものすごいスピードで水平に飛ば

状況は、当時小学1年生で60年の月日を数えでも忘れられないものとなっている。台風19号被害は、長野県内でも千曲川流域での河川決壊が多く発生、住宅地に流れ込む悲惨な状況が心を痛めた。物の被害ばかりでなく、心の痛みに寄り添える対応を祈るばかりだ。「大型で非常に強い台風」・「大雨・洪水警戒レベルで最高」の5に相当。「最大級の警戒や避難を求めた大雨特別警報」・「年間降水量の約3割が2日間

の降雨で」など聞きなれない表現が続く異常な気象現象。温暖化に伴って、威力は増々増大するのではとの予測に本気に取り組む指導者の誕生を願うばかりだ。

10月半ばだが、刈り取りが終わらない圃場にも積極的に農業を盛り上げるために開催される。またJA大北合併55年を迎えるに当たり、例年北部・中部・南部で別開催していた感謝祭が今年は11月1日・2日に大町市の平グランドで一堂に会して開催される。

飲食業現場でも「お一人焼肉」が栄え、「一人旅」も無視できない市場になって行くだろうとの情報だ。大北地域の観光現場も「おひとりさま」にどの様に対応するのだろうか。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



台風19号で森上地籍の国道歩道が通行不能に

異常な気象現象への対応力が求められている

10月半ばだが、刈り取りが終わらない圃場にも積極的に農業を盛り上げるために開催される。またJA大北合併55年を迎えるに当たり、例年北部・中部・南部で別開催していた感謝祭が今年は11月1日・2日に大町市の平グランドで一堂に会して開催される。